

ホオズキのホウ素過剰による葉枯れ症状

農業研究部・花きグループ

1. 研究の背景

ホオズキは、5月上旬頃から中下位葉の葉縁が枯れる症状が発生し、品質低下を招いているが、その原因は未解明である。そこで、発症葉の微量元素濃度を測定し、発症との関連を解明するとともに、症状の再現試験を行った。

2. 研究成果の内容・普及のポイント

ホオズキの葉縁が枯れる症状を呈した葉の微量元素濃度を測定した結果、健全な葉に対してホウ素濃度が高かった。また、養液栽培による再現試験では、養液中のホウ素濃度が1.25 ppm以上の場合、症状が再現された。

このような葉枯れ症状が発生する圃場では、ホウ素を含む肥料や資材の過度な連用を避けるとともに、ホウ素要求量が多いストックとの連作を行うなどの対策も有効であると考えられる。



現地圃場で発生する葉縁が枯れる葉枯れ症状

ホオズキ下位葉中の微量元素濃度

	乾物あたりの含有量 (ppm)				
	ホウ素	鉄	マンガン	亜鉛	銅
葉枯れ発生葉 z	221	90	94	97	23
健全葉 y	65	85	97	91	55
t 検定 x	*	N.S	N.S	N.S	N.S

z : 県内の栽培圃場で発生した葉縁の葉枯れ症状を呈した下位葉(5例の平均値)

y : zと同一圃場で葉枯れ症状を呈していない健全株の下位葉(5例の平均値)

x : * 5%水準で有意差あり N.S 有意差なし



ホウ素濃度1.25ppm



ホウ素濃度 2 ppm



ホウ素濃度12.5ppm

養液栽培試験によって再現された葉枯れ症状

3. 期待される効果

- ・葉枯れ症状の軽減による安定着果
- ・品質向上によるホオズキ生産者の所得向上

4. 担当機関連絡先

農業研究部 花きグループ

住所：別府市大字鶴見710-1

TEL：0977-66-4706